

# みちのくの鬼たち

おし  
鬼剣舞の里

●企画  
(財)ポーラ伝統文化  
振興財団

●製作  
(株)桜映画社

●監修  
本田安次

カラー 36分

●販売価格 (消費税別)

16ミリ / 215,000円

VHS / 25,000円

50,000円

(FL 価格)

文部省選定  
文化庁優秀映画作品賞  
優秀映画鑑賞会推薦

浄土教的色彩の濃い衣川村の川西念仏剣舞



美しい岩手の里に  
鬼たちが踊る  
本田安次

東北地方の岩手・宮城両県下に、「けんばい」と呼ばれる踊りがかなりひろく行なわれています。念仏けんばい、鬼けんばい、離こけんばいなど、けんばいは、剣をとつての「けんばい」ということらしく、「へんばい」(反問)は中国の言葉で、悪魔を踏み鎮める一種の足踏みを意味したようです。そして今「けんばい」と云えば、それは念仏拍子で踊る踊りという意に用いられています。

大念仏けんばいには、多く直径六尺もある大きな笠に、三重や五重の塔を中心に、四門・花などを飾って冠り、これをくるくると廻しながら踊る笠振りが出たり、鬼けんばいには阿吽の面をつけた鬼たちが出て、太刀くぐりなどがあって踊ります。離こけんばいには剣のかわりに、つぼけと呼ばれる花錫杖しきじょうを持った稚児たちが出ます。この度はこれらのうち、鬼けんばいが主としてとり上げられました。

平和な、美しい岩手の里に、盆になる  
とこの鬼けんばいの一団が家々を訪

れ、父祖たちの霊をなぐさめて踊ります。この鬼というのは、伝説によると、「高館物怪」とも称し、その昔、高館で亡びた義経主従の亡霊(後二年の役の亡霊とも)が夜な夜な現われ、高館御所・伽羅の御所・柳の御所と荒れまわり、人々恐れおののき、肝玉も抜かれる騒ぎに、清衡公も捨ててはおかず、中尊寺一山三百禪坊の僧達に命じて、七日七夜が間、山王山にこもって祈念せしめた。ところが何処よりもなく猿猴現われ来り、やがて亡魂に交つて、拍子面白く阿修羅踊りを踊りつれ、次第に猫間が淵へと退散し、以後は絶えて姿を現わすことはなかった。けんばいはこの阿修羅踊りに形どったものといえます。

このけんばいも、所により伝承に若干ずつの相違がありますが、もともと古風と云われる胆沢郡衣川村川西のものには、武者十人のほかに、若一、やえん一、道化面の座敷もち一などが出ます。武者は頭に羽さいをつけ、笛、太鼓に合わせてきびきびと踊ります。そして念仏けんばいと称していますが、けんばい、おっこみ、おっこみくずし、魔王、式けんばい、いかものなどの曲を伝えています。また、和賀郡岩崎の鬼けんばいでは、八人の阿吽面のものが出ますが、毛さいを振り振り颯爽と、一番庭、引き念仏、せんや念仏、狂い、二番庭、三番庭などを踊ります。大人、少年たちの稽古風景なども、これらの踊りが、平和な環境によく合つて、まことに美しく写し出されています。





川西に伝えられてきた面の数々

◆取材協力

岩手県衣川村  
衣川村教育委員会  
岩手県教育委員会  
盛岡市教育委員会  
北上市教育委員会  
衣川川西大念仏剣舞保存会  
岩崎鬼剣舞保存会  
上鹿妻念仏剣舞連中  
盛岡市都南歴史民俗資料館  
中尊寺  
北上市立鬼の館  
平泉文化史館  
関根太鼓店

◆製作スタッフ

製作＝村山和雄  
脚本・演出＝村山正実  
撮影＝村山和雄  
木村光男  
山屋恵司  
照明＝水村富雄  
編集＝吉田栄子  
ネガ編集＝守随房子  
音楽＝山崎 宏  
語り＝加賀美幸子

みちのくの鬼たち—鬼剣舞の里—

岩手県北上市和賀町岩崎、滑田、胆沢郡胆沢町朴ノ木沢、衣川の四つの地域の鬼剣舞は、平成五年、国の重要無形文化財に指定されました。

衣川村川西の佐藤家は、昔から農業を営む傍ら、剣舞の芸能一団を率いる庭元（一座の座元）を代々継いでいます。鬼剣舞は、約五百年も前から口伝により伝承されてきたといいますが、大正時代には先代が文字で詳しく書き記しました。それは、地元の歴史を絶やしたくないとの思いからです。いま、川西の鬼剣舞のメンバーは十四人、職業は様々です。

衣川村にある衣里小学校では、地元で伝わるこの念仏剣舞を後世に伝えようと、七年前から伝承活動に取り組んでいます。保存会の

人たちが交替で、太鼓の拍子を口ずさみながら、口伝えで子供たちに踊りを教えます。昔のまま伝承してきた剣舞を自分たちの代で絶やしたくないと、気持ちに一層力が入ります。また子供たちに剣舞の歴史と先祖の心を知ってもらいたいと、剣舞ゆかりの地を歩く史跡の見学も始まりました。

十一月三日、中尊寺の秋の藤原祭りの日。この日寺の宿坊では、初めて剣舞の衣装を身に着ける子供たちの緊張した顔がありました。子供たちは新しい鬼の面を付け、庭元の力強い太鼓と掛け声とともに、元気いっぱい踊りだします。

みちのくの四季を通して、大切に伝えられてきた鬼剣舞を記録すると共に、地域と子供たちを繋ぐ民俗芸能の姿を生き生きと描きます。



放課後、保存会の大人たちに踊りを教わる子供たち

<民俗芸能の心>シリーズ

各巻カラー34分 企画：(財)ポラ伝統文化振興財団 監修：日本伝統芸能研究所長 高橋秀雄



ねぶた祭り——津軽びとの夏

販売価格 16ミリ/210,000円  
(消費税別) VHS/25,000円  
50,000円(F L 価格)

青森をはじめ、弘前や東北各地には今もさまざまなねぶた行事が残されている。ふだんみられないねぶた師によるねぶた制作の様子も紹介しながら、津軽の夏、ねぶた祭りで一気に爆発する人々のエネルギーを描く。



舞うがごとく翔ぶがごとく—奥三河の花祭

販売価格 16ミリ/210,000円  
(消費税別) VHS/25,000円  
50,000円(F L 価格)

天竜川の上流・愛知県奥三河地方に、村人の平安と繁栄を願って伝承されてきた「花祭」を記録した。夜を徹して、神々とともに舞い踊る人々の熱気と興奮を伝え、大自然の眩きに耳を傾けてきた日本人の心を描く。



秩父の夜祭り—山波の音が聞こえる

販売価格 16ミリ/210,000円  
(消費税別) VHS/50,000円

近代化の波と風化をまぬがれて、埼玉県秩父盆地の村々に残されてきた多くの祭りや行事を紹介する。そして一年の集大成ともいふべき「秩父夜祭」を通して、人々の生活に根づいた祭りの持つ意味を考える。